

平成24年国際研究集会を開催

●大学院国際言語文化研究科

大学院国際言語文化研究科は、11月23日(金)から25日(土)までの3日間、文系総合館及び西尾市岩瀬文庫において、平成24年国際研究集会「フランス国立図書館蔵『酒飯論絵巻』を巡って」を開催しました。

これは、日本学術振興会国際研究集会助成により、「フランス国立図書館蔵『酒飯論絵巻』研究会」を総括する目



研究集会の様子

的で企画されたものです。同研究会は、フランス人研究者を中心として2009年9月に創設され、本学に所属する研究者も創設以来携わっており、「日本物語絵写本研究会」としても活動しています。

美術史のみならず、中世文学、中世思想史などを専門とする研究者も多数参加し、聴衆は3日間で170名にのぼりました。また11月27日(火)には、東京の日仏会館において、「描かれた酒と米」と題して同研究集会の総括を行い、登録制に関わらず50名以上の聴衆が集まり、活発な議論が行われました。

なお、同研究集会の報告書は、「アジア遊学」特集号(勉強出版)として出版される予定です。

また、日本物語絵写本研究会の研究プロジェクトの全体報告書も、日本及びフランスにおいて、2014年、2015年に続けて4冊の出版が企画されています。

第14回「まちとすまいの集い」を開催

●大学院環境学研究科、減災連携研究センター

大学院環境学研究科建築学教室及び減災連携研究センターは、12月8日(土)、環境総合館レクチャーホールにおいて、第14回「まちとすまいの集い」を開催しました。今回は「歴史に学ぶ安全安心なまちづくり」をテーマとし、120名を超える参加がありました。

名古屋では、今後の南海トラフ巨大地震に備えて安全か



会場の様子

つ安心なまちを形成するために、様々な検討が進められています。今回は、関東大震災後の帝都復興事業、清須越、広小路建設、濃尾地震、戦災復興事業等、検討を進めるにあたって参考とすべき歴史とその教訓を振り返りました。

まず、武村雅之減災連携研究センター教授が「関東大震災から見える江戸・東京の街の変化」と題して、安政江戸地震と関東地震の状況を概観した上で、関東大震災の教訓である耐震設計の必要性和安全な都市構造の構築について解説しました。続いて、西澤泰彦環境学研究科准教授が「災害の教訓と名古屋のまちづくり」と題して、清須越、広小路建設、濃尾地震、治水と利水、戦時体制と戦災復興における先人たちの工夫を紹介しました。次に、廣井 悠同センター准教授が「まちとすまいと人間」と題して、都市防災計画の歴史を概説した上で、避難場所の安全性と複合災害、事業所と進める大都市防災、自助の過大評価、被害の広域性といった今後の都市防災の課題を、人間に焦点を当てて提示しました。

その後、福和同センター長のコーディネートで、これからの名古屋のまちづくりの課題について、会場も交えた活発な議論が行われました。

第84回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター



講演する浜口名誉教授

減災連携研究センターは、11月26日(月)、環境総合館レクチャーホールにおいて、第84回防災アカデミーを開催しました。

今回は、浜口博之東北大学名誉教授が「地方富士と富士山－静穏期の長い火山を対比的に見る」と題して講演し、約100名の参加がありました。

浜口教授からは、活火山の定義や火山の噴火予知の基礎知識をはじめとし、岩手山や磐梯山などの地方富士と富士山との違いについて、詳しく説明がありました。特に火山の噴火予知については、実際に岩手山での観測網の整備や前兆現象が観測された際に取り組んだ事例などの紹介がありました。

今後は宝永噴火以来300年間静穏している富士山の噴火予知に関して、長期ビジョンを持って粘り強く観測していく必要があると締めくくりました。

第85回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター



講演する矢代教授

減災連携研究センターは、12月12日(水)、環境総合館レクチャーホールにおいて、第85回防災アカデミーを開催しました。

今回は、矢代晴実防衛大学校教授が「地震保険を考える」と題して講演し、約100名の参加がありました。

矢代教授からは、損害保険の一般原則をはじめとし、地震被害の保険化の困難性や地震保険が設立された歴史、現在の地震保険や被災者に対する国の制度について、詳しく説明がありました。また、日本の地震保険と海外の地震保険を比較し、それぞれの特徴や考え方を紹介しました。

最後に、生命保険と比べて保険料が低いにもかかわらず加入率が低い地震保険について、もっと加入者を増やし、皆で有事に備える必要があると締めくくりました。

和式馬術供覧を開催

●博物館



演武の様子

博物館は、12月9日(日)、教育学部附属中・高等学校運動場において、同学校及び体育会和式馬術部との共催により、和式馬術供覧を開催しました。

当日は、風が強く冷え込んだにもかかわらず、114名の来観者があり、和式馬術部員による馬上武術、打鞠、流鏑馬等の演武のほか、同高等学校の弓道部員による遠的騎射も行われました。演武の後は、和種馬への体験乗馬の機会も設けられ、乗馬を体験した来観者は西洋馬との違いを実感したようでした。

同行事は平成18年より毎年実施されていますが、大学近隣住民の関心は高く、「来年もぜひ来たい」との声が多く寄せられました。